

## Unit planner 単元計画書

Teacher(s) 担当教師	田中誠也	Subject group and discipline 教科と領域	個人と社会（社会）		
Unit title 単元名	私たちと経済	MYP year 学年	MYP4	Unit duration (hrs) 授業時間数	27 時間

### 探究 単元の目的を確立する

Key concept 重要概念	Related concept(s) 関連概念	Global context グローバルな文脈
グローバルなかかわり	希少性	アイデンティティーと関係性 説明：幸福と人生に対する満足
Statement of inquiry 探究テーマ		
希少性のあるモノ・サービスのグローバルな交換が、人々の幸福と人生に対する満足を高める可能性がある。		
Inquiry questions 探究的質問		
Factual 事実的な問い - 希少性とは、どのような概念か。人々の間で、どんなグローバルな交換が行われているか。		
Conceptual 概念的な問い - 幸福と人生に対する満足は、どの程度の希少性の高さが必要か。		
Debatable 議論的な問い - 世界のすべての人々の幸福と人生に対する満足を実現しうるのか		
Objectives 目標	Summative assessment 総括的評価	

<p><u>A. 認識と理解</u></p> <p>i 文脈に合った一定範囲の用語を使う。</p> <p>ii 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。</p>	<p>評価規準を含む総括的評価課題の概要</p> <p>GRASPS シート</p> <p>G：目標</p> <p>「希少性のあるモノ・サービスのグローバルな交換が、人々の幸福と人生に対する満足を高める可能性がある」ことを理解する。</p>	<p>総括的評価課題と探究テーマとの関係</p> <p>お金と幸福との関係は深いものがある。多くの人は、お金があればあるほど、幸せになれると考えている。希少性の観点から言うと、希少性が高いモノ・サービスを利用できればできるほど、幸せだと捉える。一方で、現実社会では、生涯で得られるお金には、有限性があり、有限な中で交換を行い、生活をしていくことになる。生徒にとって、まだ働いていない状況で、将来のお金のことをイメージすることが難しい。そのため、シュミレーション教材を用いることで、マネープランを考えることが可能になる。</p>
<p><u>B. 調査</u></p> <p>i 明確かつ的を絞った研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。</p> <p>ii 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。</p> <p>iii 関連性の高い情報を収集し記録するための方法を活用する。</p> <p>iv 指導を得て、研究のプロセスと結果を評価する。</p>	<p>R：役割</p> <p>将来の自分</p> <p>A：聞き手</p> <p>現在の自分</p> <p>S：課題の状況</p> <p>ライフイベントに合わせて、これからの人生でどれくらいのお金が必要になるのか、シュミレ</p>	

<p><u>C. コミュニケーション</u></p> <p>i 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝達する。</p> <p>ii 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。</p> <p>iii 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。</p>	<p>ーションし、現在の自分について見直しをする。</p> <p>P：制作物</p> <p>生活設計・マネープランシート</p> <p>S:評価</p> <p>あなたの作品は以下によって審査されます。基準 B（調査）、基準 C（コミュニケーション）。</p> <p>評価規準のみとりについて</p>	
<p><u>D. 批判的思考</u></p> <p>i 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。</p> <p>ii 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。</p> <p>iii 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を認識する。</p> <p>iv さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。</p>	<p>基準 B（調査）</p> <p>生活設計・マネープランシートを作成したプロセスと結果を評価する。</p> <p>基準 C（コミュニケーション）</p> <p>ゲームで体験してわかったことを、普段の生活にどのように活かしていけばいいか、表現する。無限にお金を手に入れられるわけではない中で、幸せを追求するために、何が大切か考える。</p> <p>定期テスト</p> <p>基準 A（認識と理解） B（調査）、 D（批判的思考）の基準を測る。</p>	

	<p>基準 A (認識と理解)</p> <p>経済的出来事の名稱を問う問題や、出来事の原因を説明する問題などを出題し、用語の知識を確認したり、概念的知識を確認したりする。</p> <p>基準 B (調査)</p> <p>授業の中で思考した内容や記録した経済的出来事をもとにした問題を出題し、記録の再現性を確認する。</p> <p>基準 D (批判的思考)</p> <p>経済問題の原因・結果の関係性について考察し、原因を特定したり、結果の概要を説明する問題を出題する。資料から読み取れることとして正しく説明している選択肢を選択する問題を出題する。</p>	
<p>Approaches to learning ATL スキル</p>		
<p>ATL カテゴリー：思考 スキルクラスター：批判的思考スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑なシステムや問題を探究するために、モデルやシミュレーションを用いる。</li> </ul> <p>ATL カテゴリー：コミュニケーション スキルクラスター：コミュニケーションスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要約やエッセイ、レポートにおいて情報を構築する。</li> </ul> <p>生徒が(規準 B,C)で成功するために、私が明確に教える最も重要なスキルは(批判的思考スキル)である。</p>		

Action: Teaching and learning through inquiry 行動「探究を通じた指導と学習」

Content 内容	Learning process 学習過程
<p>第1次「私たちの生活と経済」</p> <p>1. 単元の見通しを設定する</p> <p>2. 経済活動とお金の役割</p> <p>3. お金の使い方と経済の考え方</p> <p>4. 価格の働きと経済</p> <p>第2次「消費者と経済」</p> <p>5. 家計の収入と支出</p> <p>6. 消費生活と流通の関わり</p> <p>7. 消費者問題と政府の取り組み</p> <p>第3次「企業と経済」</p> <p>8. 私たちの生活と企業</p> <p>9. 企業活動のしくみ</p> <p>10. 金融のしくみとはたらき</p> <p>11. ライフプランからお金について考える</p> <p>12. 企業競争の役割</p>	<p>Learning experiences and teaching strategies 学習経験と指導方策</p> <p>第1次「私たちの生活と経済」</p> <p>ATL スキル：批判的思考スキル</p> <p>学ぶ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の循環図を用いて、お金の流れをモデル化する。</li> <li>・物語から、経済的な概念の意義を考える。</li> <li>・需要曲線や供給曲線を使って、価格の決め方を考察する。</li> <li>・獲得する知識</li> </ul> <p>分業と交換、経済の3主体、希少性、効率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方</li> </ul> <p>具体的な経済の問題から抽象化させていく。</p> <p>第2次「消費者と経済」</p> <p>ATL スキル：批判的思考スキル</p> <p>学ぶ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計の収入・支出について理解する。</li> <li>・消費生活に関する情報を活用する。</li> </ul>

13.働くことの意義と労働者の権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者基本法について理解し、消費者の権利や責任について知り、日常生活に活かす態度を身につける。</li> <li>・獲得する知識</li> </ul>
14.労働環境の変化と私たち	家計、選択、分業と交換、契約、自立した消費者、ライフプラン
15.企業の社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方</li> </ul>
第4次「これからの日本経済」	自らの消費行動の経験から、学習を展開する。
16.景気の変動とその影響	ATL スキル：コミュニケーションスキル
17.日本銀行と金融政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ内容</li> </ul>
18.グローバル化と日本経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の自分の消費行動について振り返り、まとめる</li> </ul>
19.これからの日本の経済と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費生活に関する情報を記録する。</li> </ul>
20-21.パフォーマンス課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の返品やクーリングオフ制度を利用するときの契約書を作成する。</li> </ul>
第5次「財政」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獲得する知識</li> </ul>
22.私たちの生活と財政	家計、選択、分業と交換、契約、自立した消費者、ライフプラン
23.国の支出と収入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方</li> </ul>
24.社会資本の役割と環境への取り組み	自らの消費行動とその危険性について、考えをまとめる。
25.社会保障と私たちの生活	第3次「企業と経済」
26.これからの日本の財政	ATL スキル：批判的思考スキル
27.単元の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ内容</li> </ul>
	株式会社のおしくみ、金融のおしくみ、リスクとリターンの関係図などを用いて、経済的な概念について考察する。

	<p>・獲得する知識</p> <p>分業と交換、企業の目的、株式会社のしくみ、金融のしくみとはたらき、ライフプラン、競争、効率と公正、労働者の権利、働き方、社会的責任</p> <p>・進め方</p> <p>模擬企業づくりを通して、実践的に理解する。</p> <p>ATL スキル：コミュニケーションスキル</p> <p>・学ぶ内容</p> <p>模擬企業づくりを通じて、起業企画書を作成する。</p> <p>・獲得する知識</p> <p>分業と交換、企業の目的、株式会社のしくみ、金融のしくみとはたらき、ライフプラン、競争、効率と公正、労働者の権利、働き方、社会的責任</p> <p>・進め方</p> <p>模擬企業づくりを通して、実践的に理解する。</p> <p>第4次「これからの日本経済」</p> <p>ATL スキル：批判的思考スキル</p> <p>・学ぶ内容</p> <p>中央銀行のしくみや金融政策の影響、為替レートのしくみを理解する。</p> <p>・獲得する知識</p> <p>景気変動、経済指標、中央銀行の役割、金融政策、為替レート、経済のグローバル化、デジタル化、AI</p>
--	--

	<p>・進め方</p> <p>さまざまな経済に関する資料を用いて、経済的な概念を獲得する。</p> <p>ATL スキル：コミュニケーションスキル</p> <p>・学ぶ内容</p> <p>複数の資料から読み取った内容を記述し、統合する。</p> <p>・獲得する知識</p> <p>景気変動、経済指標、中央銀行の役割、金融政策、為替レート、経済のグローバル化、デジタル化、AI</p> <p>・進め方</p> <p>資料読解を班で行い、読み取った内容を意見交流する。</p> <p>第5次「財政」</p> <p>ATL スキル：コミュニケーションスキル</p> <p>・学ぶ内容</p> <p>日本の財政のあり方について、議論する。</p> <p>・獲得する知識</p> <p>社会保障のしくみ、財政の意義、税金、規制緩和、保険、財政政策</p> <p>・進め方</p> <p>班で討論を行い、よりよい社会づくりについて考察する。</p> <p>〈他の教科との関わり〉</p>
--	--

金融教育において、生活設計について家庭科との関連が深い。家庭科ではライフプランであったり、消費者について学習する。社会科ではしくみについて主に学習するので、そのあたりで、棲み分けがされている。労働者の権利について、保健体育と関連があり、健康的に働くためにどうするかを考える。マクロ経済では、グラフの傾向を読み取る学習活動があり、これは数学の関数の学習との関連性がある。

Formative assessment 形成的評価

〈授業内での評価〉

- ・帯学習として、5分間スキルを行い、知識の確認を行う。
- ・生徒の発言に対して、良いところや改善点をフィードバックする。
- ・到達度を示す。

〈振り返りシート〉

- ・改善点をフィードバックする。
- ・記録をこまめに取るようにする。

Differentiation 差異化

生徒は、自分の考えを、クラスの人に説明する機会がある。

他者の考えに触れ、自分の考えを再構成する機会がある。

班で意見を統合し、まとめる機会がある。

班でディスカッションを行う。

ツールミン図式を用いて、意見を構成する。

- ・教室に入れない生徒もいるので、授業資料や課題は、オンラインを通して配布するようにし、教室外からでもアクセスが可能なようにしておく。

Resources 資料

- 教科書『社会科 中学生の公民』（帝国書院、2015年）、東京法令出版（2024）『ビジュアル公民』東京法令出版、
- ・唐木清志 編（2023）『社会科の「問題解決的な学習」とは何か』東洋館出版社
  - ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【中学校 社会】』東洋館出版社、2020年
  - ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省、平成29年7月
  - ・長瀬勝彦（2016）『改訂新版 図解 1時間でわかる経済のしくみ』ディスカヴァー・トゥエンティワン

Reflection: Considering the planning, process and impact of the inquiry 振り返り

Prior to teaching the unit 単元の指導前	During teaching 単元の指導中	After teaching the unit 単元の指導後
<p>金融リテラシー調査の結果、全体として、全国平均と比べると、3.6ポイント低い。全国平均と比べて、ポイントが高い分野は、「金融取引の基礎」（2ポイント）、「外部の知見活用」（0.9ポイント）となっている。全国平均と比べて、ポイントが低い分野は「家計管理」（9.2ポイント）、「生活設計」（0.1ポイント）、「金融・経済の基礎」（4ポイント）、「保険」（8.4ポイント）、「ローンクレジット」（7.9ポイント）、「資産形成」（9ポイント）となっている。学習を通して、金融リテラシーを高めていきたい。小学校でのお金のことについて学んだ</p>		

経験としては、34.3%となっている。学習した内容としては、「家の収入や支出の管理」「環境問題・脱炭素社会・SDGsについて」の数値が大きい。小学校では、身近なお金について学習していることがわかった。意識的にお金のことについて学んでいるというより、無意識のうちに学校教育の中でお金に関する学習をしてきたと言える。

中学3年生となり、授業でお金のことを教えてほしい割合は、69%となっていて、関心が高い。内容について聞くと、バランスよく金融の知識を学びたいと考えていることがわかる。